

教育 かしま

第62号

電子版はこちらから



【発行日】
令和7年6月1日
【発行】
鹿嶋市教育委員会
【連絡先】
鹿嶋市教育委員会 総務就学課
Tel.0299-82-2911（内線521）

地域の特色ある教育活動を応援し、開かれた教育環境を推進するための情報を掲載していきます

英語教育、国際交流の新たな一歩



鹿嶋市は、グローバルな人材育成を目指し、平成19年に文部科学省へ英語教育特区を申請し、小学1年生からの英語教育活動を導入してきました。さらに、市内17小・中学校に15名のALT（外国語指導助手）を配置し、英語に触れる機会を確保することで、令和6年度には中学3年生の55.4%が英検3級相当以上の英語力を習得するなど、大きな成果を上げています。

これまで鹿嶋市では英語教育に力を入れ、英語力向上を推進してきましたが、英語圏の国々との交流の機会は限られたものでした。そこで、さらに多様な文化や価値観に触れ、地域の国際的な発展を促進することを目的として、鹿嶋市はフィリピン・ダナオ市との姉妹都市協定を締結しました。この締結を通じて教育や文化の交流を深め、これまでの英語教育の取り組みをより実践的な形で発展させていくことを目指します。

フィリピン・ダナオ市を姉妹都市に選んだ理由

フィリピンはタガログ語をはじめとする100以上の言語が使われる多言語国家ですが、公用語の一つとして英語が広く使われ、学校教育の授業も英語で行わ

れています。そのため、幼少期から英語に触れる環境が整っており、世界的にも高い英語力を有しています。

鹿嶋市でもこれまで多くのフィリピン人のALTを学校に配置してきましたが、彼らの英語は明瞭で聞き取りやすく、第2言語として幼い頃から学んできた経験を生かし、子どもたちのつまずきにも寄り添った指導ができるという強みがあります。さらに、フィリピン人は明るくフレンドリーな性格で、子どもたちが自然に楽しく英語を学ぶ環境を作り出しています。

令和6年11月、姉妹都市締結

令和6年11月、市長を含む鹿嶋市の代表団がダナオ市を訪問し、姉妹都市協定の調印式を行いました。

今後鹿嶋市では「産業、観光、農業、スポーツ、教育等」さまざまな分野で交流を図るとともに、姉妹都市協定に基づくALTによる学習支援、さらに児童生徒が、学習した英語を活用した異文化交流を行う機会を創出するなど、これまでの英語教育の取り組みをより実践的な形で発展させていくことを目指します。

令和7年度からの新たな取り組み

姉妹都市協定により、さらなる英語教育と国際交流の促進に向け、以下の新たな施策を導入しました。

フィリピン人ALTの配置

姉妹都市協定に関連したフィリピン人のALTを新たに15名雇用し、英語教育のさらなる充実を図ります。

イングリッシュラウンジ(英会話教室)の拡充

これまで小3から小6を対象に実施していたイングリッシュラウンジを、令和7年度より小1から中3まで対象を拡大。より多くの児童生徒が、日常的に英語を使う場を得ることができます。参加者募集チラシは、6月中旬に配布予定です。

イングリッシュアーバンキャンプ(体験型英語学習)の拡充

これまで小5と小6を対象としていたイングリッシュアーバンキャンプも、令和7年度より小5から中3まで対象を拡大。より高度な英語学習と実践的な活動を通じ国際感覚を育む機会を提供します。

今後も、フィリピン・ダナオ市との連携を深めながら、国際交流の発展と英語教育の充実を図っていきます。鹿嶋市とダナオ市の絆が深まり、未来のグローバル人材の育成へとつながることを期待しています。

フィリピン・ダナオ市の紹介

- 【国 名】フィリピン共和国セブ州ダナオ市
- 【面 積】107.3km² (鹿嶋市とほぼ同じ)
- 【人 口】156,321人 (鹿嶋市の約2.3倍)
- 【主要産業】農業、漁業、観光業

フィリピンのセブ州にあり、1961年に正式に都市として設立されました。「スポーツ・ツーリズム」を掲げる都市で、市が支援する「子どもサッカークラブ」があります。地元スポーツイベントを多く実施しており、市として「子どもサッカークラブ」を支援していることから、サッカーチームを擁する鹿嶋市との親和性の高さに共感しています。



▲ダナオ市での調印式



▲ALTの授業の様子



▲イングリッシュラウンジ



▲イングリッシュアーバンキャンプ

英語教育、こんなこともやってるよ！

英語力向上スーパーバイザー マイケル・デニング

鹿嶋市では、子どもたちが英語に親しみ、実践的なコミュニケーション力を身に付けることを目的として、英語を母国語とする職員(英語力向上スーパーバイザー)を配置しています。

鹿嶋市では英語授業の質を高める取り組みや、ALTの研修を充実させ、子どもたちの英語学習の環境をデニング先生と一緒に整えています。市内の学校を訪問しているので、デニング先生を見かけたときは「Hi, Mr. Denning」と声をかけてください。



鹿島中学校の生徒が挑戦！
ふるさと納税返礼品「なめらか焼芋アイス」が
こども未来賞受賞！

鹿島中学校の生徒たちは、地元の魅力を発信しようと「なめらか焼芋アイス」を企画・提案し、地元事業者「鹿島焼芋」の松本さんと協力して製品化しました。そして、その取り組みが「ふるさとチョイス AWARD2024」にノミネートされ、フリーアナウンサー・有働由美子さんが選ぶ「こども未来賞」を受賞しました。

生徒たちはアイデアを形にし、ふるさと納税返礼品



▲ふるさとチョイスAWARD2024授賞式

の製品化を通じて地域に貢献しました。その努力が認められ、未来を創る若い世代の挑戦として評価されました。

授賞式でコメントを求められた中学生からは「今回のAWARDのプレゼンを聞いて、各自治体が一所懸命に取り組んでいるのを知ることが出来た。自分が納税するときには、AWARDに出ている自治体の取り組みを見て、どの自治体に納税するか決めたい」と堂々とコメントし、会場にいる大人たちを驚かせていました。

AWARDでのプレゼン動画はこちらから→



▲中学生が考案した「なめらか焼芋アイス」

『令和7年度かしま子ども大学』を開講

鹿嶋市内の小学校5・6年生を対象とした『かしま子ども大学』を今年度も開講し、第6期生を募集します。

子どもたちの知的好奇心を刺激しながら、学ぶ楽しさを育み、将来の夢や可能性をひろげることを目的としています。講座では、さまざまな分野の専門家を講師としてお迎えし、多彩な学びの講座を展開します。

今年度は、第1回講座に「国立天文台の布施哲治先生」をお迎えし、星や宇宙などについて学びます。

講座は全7回を予定しています。詳しい日程や内容などは、今後学校から配布されるチラシをご確認ください。



▲昨年度実施「キャリアデザイン教室」

かしま子ども大学 講座内容		
回数	内 容	講 師
1	星や宇宙の不思議について	国立天文台 布施 哲治 氏
2	(株)カネカ鹿島工場で製造している素材と私たちの暮らしの関係性について	(株)カネカ
3	風力発電について（風車の適地、構造、メンテナンスなど）	東京電力 リニューアブル パワー(株)
4	様々な魅力を伝えるためのデザインの作り方について	元地域おこし協力隊 松崎 侑奈 氏
5	大学キャンパス見学や大学教授による講義を受講	(仮) 県内大学
6	施設を見学して、地球の歴史や自然と生命の不思議について学ぶ	ミュージアムパーク 茨城県自然博物館
7	これまでの講座内容を振り返り、まとめた内容をラジオ収録する	FMかしま市民放送(株)

豊津小学校、中野西小学校

学校規模適正化に向けた検討を開始

鹿嶋市では、令和6年12月に策定した「学校規模適正化基準」に基づき、豊津小学校と中野西小学校の統合を含めた学校の在り方などについての検討を開始しました。2月には「学校規模適正化検討委員会」を開催し、各校の児童数の推移などを考慮しながら適正化の方針などを協議しました。今後、具体的な手法やスケジュールの検討などに向け、2つの小学校ごとに保護者や地域住民などによる分科会を設置し協議を進めていきます。

また、分科会に先立ち、3月から5月にかけて豊津小、中野西小学区において保護者説明会や地区説明会を開催し、教育委員会から学校がおかれている現状や今後の学校の在り方などについて説明を行いました。参加者からは「学校がなくなることで地域がどう変わるか心配」「統合日程の具体的な案が決まらず不安」「多い人数の中で学ばせたいので、できるだけ早く統合を進めてほしい」などといった声が寄せられました。また、統合による通学距離の延伸に伴い、スクールバスの導入を求める意見や子どもたちのメンタルケアについての懸念も示されました。

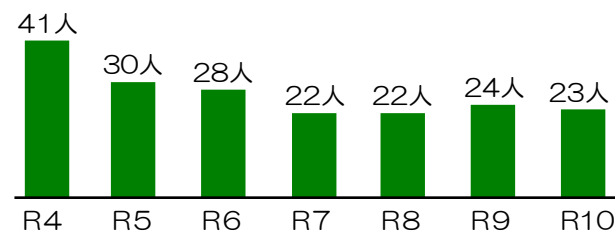
市では、こうした意見を踏まえながら適正化の手法や課題について協議を進めていきます。今後の検討状況について「教育かしま」などを活用しながら周知していきます。

【鹿嶋市学校規模適正化基準】

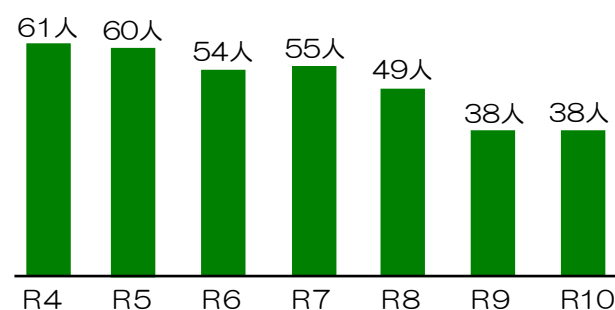
次の要件をいずれも下回る場合は、統合などを検討する。

- (1) 通常学級数6学級
- (2) 同一学年児童数12人、かつ、全校児童数72人

豊津小児童数の推移と見込



中野西小児童数の推移と見込



鹿嶋の文化財 第十四回 ヒスイの大珠

「マンガかしまの歴史」シリーズの第5巻「縄文・弥生時代の鹿嶋―遺跡が語る先人のくらし―」が令和7年5月1日より鹿嶋市どきどきセンターほかで頒布開始となりました。今回はこの本にも登場する鹿嶋市内から出土した縄文時代の装飾品を紹介します。

写真は厨台遺跡群から出土した「ヒスイの大珠（たいしゅ）」です。薄緑

色のヒスイを加工して作られており、首飾りや腰飾りに使用されたと考えられています。ヒスイは新潟県姫川流域が原産であり、縄文時代中期以降東日本を中心に全国に供給されました。鹿嶋市内では厨台遺跡群の他にも津賀城跡からもヒスイの大珠が見つかったおり、共に姫川産のヒスイです。



▲厨台遺跡群出土のヒスイの大珠（鹿嶋市どきどきセンター蔵）



▲鹿嶋市文化財デジタルアーカイブにも写真を掲載しています

写真にも縄文時代の装飾品として、神野遺跡からはベンケイガイで作った腕輪（貝輪）や、片岡遺跡（鹿嶋市宮中）などからは石製や土製の耳飾りが見つかっています。このような装飾品は、社会的な地位を表したり、魔除けやまつりといった儀式に使ったりする中で発展したと考えられます。

